

佐倉福音キリスト教会

サッサッ通信

2019年8月号(第56号)



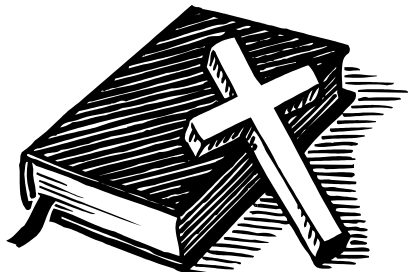
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともしせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』【ルカの福音書 18 章 13 節】

“何かができる”ということに価値を置くということはないでしょうか。若い時にはやりたいことが何でもできたけれども、年を重ねていくと思うようにはできなくなり、自分が役に立たない人間になってしまったような気がしてしまうという話を耳にします。また、病気になり、以前のようにはいかない自分に歯がゆさを感じるということもあるかもしれません。しかし、この“何かができる”というところに価値をおいた生き方はなかなか曲者な気もします。単刀直入に言いますと、高慢になりやすいのです。聖書には、自分は正しいと確信していて、他の人を見下している人たちに、イエス様がたとえを話されたことが記されています。そのたとえには、二人の人物が登場します。一人はパリサイ人で、もう一人は

取税人です。パリサイ人は、旧約聖書の教えを厳格に守ろうと励んでいた人たちでした。一方の取税人は、同胞のユダヤ人から税金を取り立てローマ帝国に納める仕事をしていました。時に、多く税金を取り立てて私腹を肥やす人もいたことから嫌われていました。その二人が祈るために宮へ行きました。そこで、パリサイ人は次のような祈りをしました。「神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようではないことを感謝します。私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。」この祈りをご覧になってどのようにお感じになるでしょうか。これまで不正に手を染めることなく、断食や献金もしっかりして宗教的

にもしっかりとやってきた。そのことを神様に感謝しています。このパリサイ人は、何でも真面目にやってきたのです。しかし、一つ引っかかるのは「この取税人のようではないことを感謝します」と言って、当時嫌われ者とされていた取税人を見下げていました。一方の取税人は次のようでした。

「取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』」取税人は、自分の罪に心打たれ、目を天にも向けられず、自分の胸をたたいて神のあわれみを願いました。取税人は、何も良い行いはできず、むしろ罪ばかり犯してしまう自分を嘆き、神の前に祈りました。この後の結果について、イエス様は次のように言われました。「あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」結果的に神様の前に自分の行いを誇ったパリサイ人ではな

～集会案内～

○日曜日：聖日礼拝 11:00～12:30 ○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
教会学校 10:00～10:40（子どもから大人まで） 19:30～21:00
○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（子育てなどをしている方のための集い。）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

く、自分の罪を悲しみ、足りなさを嘆いて神の前にあわれみを願った取税人が義と認められました。「義と認められた」というのは、神の前にただしい者とされたということです。

聖書は「何かができる」ということだけで人を評価することはしません。むしろ、自分の足りなさ、愛のなさ、そういった内面を深く見つめ、神の前にへりくだって生きている人を評価してくださいます。もし「何かができなければ」というところに価値を置いているとするならば、そこから解放され、神の前に低くなって生きることを大切にして頂きたいと願います。何かができなくとも、神は受けいれて下さいます。

◆コラム

聖書の価値観が、世の中とは違い過ぎて衝撃を受けることがあります。多くの場合、逆をいくのです。今日の箇所で言えば、正しく生きることはもちろん大切なことです。しかし、時にそれが人を高ぶらせ、他者を見下すようになるとことがあります。仮に何かができていたとしても、人を見下すような生き方を神は喜ばれません。神が求めておられるのは、あわれみの心であり、へりくだった態度です。イエス様は言われました。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」これぞ福音です。この福音を多くの方に知って頂きたいと願っています。